

「森のアスレチック (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

山荘の裏庭に作った「森のアスレチック」の3原則は、「安全」「面白い」「意外性がある」「低予算」である。はしごやザイルなど、もともとあるものは、できるだけ利用することにした。



3番目はただの脚立。ただし、普通の脚立とはちがって天板が広く、ペンキ塗りなど、少し動き回る作業に適したタイプだ。これを森に置くだけで、結構楽しい。カラマツの落ち葉で足場が悪いので、意外とバランスが悪い。その分、落ちて怪我はないだろう。



4番目は力作の「切り株平均台」数年前に切った、白樺の切り株3本に、テラスの床板のあまりを渡した。太い木ねじで強力に固定してある。実際に歩いてみると、中央部が凹むのと、左右に斜めになっているので、見た目よりも難しい。ベンチにもなって便利。



5番目は「森のブランコ」これは、安全基準を満たしたものを購入した。非常に「しょぼく」見えるが、実際に乗ってみると、風を切って、とても爽快だ。耐荷重は150kgなので、栃ノ心が乗っても大丈夫だ。しかし、高安や逸ノ城が乗ったら壊れると思う。



一番苦労したのが6番目の「ターザン・ロープ」だ。5番目のブランコを応用して、斜めに立っているアカマツの太い枝にザイルをかけて、その下にぶら下げてみた。

座っても立っても乗れるのだが、木から近いので、何往復かすると、幹にぶつかることがある。これはちょっと改良の余地ありだと思う。



※こんな「定期券」も作ってみました。お子さんがいらっしゃる方は、是非ご家族でお出

かけください。宿泊(無料、花火、バーベキュー付き)でも日帰りでも歓迎します!